

目次

ADOC	1
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg未満(サイクル1)	2
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg以上(サイクル1)	3
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg未満(サイクル2-4)	4
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg以上(サイクル2-4)	5
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg未満：サイクル5以降(維持療法)	6
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg以上：サイクル5以降(維持療法)	7
AMR単剤	8
Atezolizumab+Bev維持療法	9
Atezolizumab維持療法	10
bev+CBDCA+PEM	11
bev+CDDP+PEM (short hydration)	12
bev+CDDP+PEM	13
bev+PEM (維持療法)	14
bev+PTX (一括)+CBDCA (一括)	15
bev+PTX (分割)+CBDCA (一括)	16
Bev+オシメルチニブ	17
bev単	18
CBDCA+Weekly CPT-11	19
CBDCA+Docetaxel	20
CBDCA+GEM	21

CBDCA+nab-PTX+Atezolizumab	22
CBDCA+nab-PTX+Pembrolizumab	23
CBDCA+Paclitaxel+Bev+Atezolizumab	24
CBDCA+PEM（高齢者用）	25
CBDCA+PEM	26
CBDCA+PEM+Atezolizumab	27
CBDCA+PEM+Osimertinib	28
CBDCA+PEM+Pembrolizumab	29
CBDCA+PTX（一括）CRT後専用	30
CBDCA+PTX+Pembrolizumab→Pembro維持療法	31
CBDCA+vinorelbine	32
CBDCA+VP-16	33
CBDCA+VP-16+Atezolizumab	34
CBDCA+VP-16+Durvalumab	35
CDDP+CPT-11（NSCLC）	36
CDDP+CPT-11（SCLC）	37
CDDP+CPT-11（short hydration）	38
CDDP+Docetaxel	39
CDDP+GEM(short hydration)	40
CDDP+GEM	41
CDDP+GEM+Necitumumab	42
CDDP+PEM（short hydration）	43
CDDP+PEM	44
CDDP+PEM+Atezolizumab(ショート)	45

CDDP+PEM+Atezolizumab	46
CDDP+PEM+Osimertinib	47
CDDP+PEM+Pembrolizumab(ショート)	48
CDDP+PEM+Pembrolizumab(ロング)	49
CDDP+S-1+RT	50
CDDP+Vinorelbine (short hydration)	51
CDDP+Vinorelbine (放射線併用)	52
CDDP+Vinorelbine	53
CDDP+VP-16	54
CDDP+VP-16(short hydration)	55
CDDP+VP-16+Durvalumab	56
Docetaxel単剤	57
Docetaxel単剤	58
DTX+GEM (肉腫)	59
DTX+Ram	60
Durvalumab維持療法	61
Durvalumab維持療法 (限局型小細胞肺癌)	62
GEM+VNR	63
Gemcitabine 単剤	64
Ipi+Nivo (中皮腫)	65
IPI+Nivo+CBDCA+PEM	66
IPI+Nivo+CBDCA+PTX	67
IPI+Nivo維持療法	68
Nivo+CBDCA+PTX(術前)	69

Nivo+CDDP+GEM(short) (術前)	70
Nivo+CDDP+PEM(short) (術前)	71
Necitumumab 維持療法	72
(術前) Pembrolizumab+CDDP+GEM (short)	73
(術前) Pembrolizumab+CDDP+PEM (short)	74
Pembrolizumab+PEM維持療法	75
Pembrolizumab+PEM維持療法	76
Pembrolizumab維持療法(非扁平上皮癌)	77
Pembrolizumab維持療法(非扁平上皮癌)	78
Pembrolizumab維持療法(扁平上皮がん)	79
Pembrolizumab維持療法(扁平上皮がん)	80
Split dose CDDP+VP-16	81
weekly CBDCA+PTX (concurrent radiation)	82
weekly nab-PTX	83
weekly nab-PTX+CBDCA	84
weekly Paclitaxel+CBDCA (CBDCA一括)	85
アテゾリズマブ (術後補助化学療法)	86
アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法 サイクル1(80kg未満)	87
アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法 サイクル1(80kg以上)	88
アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法 サイクル2以降(80kg 未満)	89
アミバンタマブ+ラゼルチニブ療法 サイクル2以降(80kg 以上)	90
タルラタマブ 1コース目	91
タルラタマブ 2コース目以降	92

デュルバルマブ	93
トラスツズマブ デルクステカン	94
ニボルマブ	95
ネダプラチン単剤	96
ノギテカン単剤	97
ペムブロリズマブ	98
ペムブロリズマブ	99
ペメトレキセド単剤	100
少量CBDCA+胸部放射線療法	101

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ADOC	胸腺腫	☒ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☒ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ アロアカリス235mg デキサート注	0.75mg 1V 9.9mg	点滴	30分	day1
②	ドキシソルビシン 生理食塩水	40mg/m2 100ml	点滴	30分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑤	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液 シスプラチン	500mL 50m g /m2	点滴	1時間	day1
⑦	ソルデム 3 A	500mL	点滴	1時間	day1
⑧	生理食塩水 デキサート注	100ml 6.6mg	点滴	30分	day3, 4
⑨	生理食塩液 オンコビン	50mL 0.6mg/m2	点滴	全開で	day3
⑩	エンドキサン 生理食塩水	700mg/m2 100ml	点滴	30分	day4
⑪	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day3, 4
1 コースの期間 3週間間隔（21日）			投与スケジュール及び総コース数 コース上限は設けていない		
その他（特記事項など）					
①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン（mL）＋生食（mL）＝500mL】になるようにして使用。終了時点での蓄尿量が1000mL以下のとき、Dr call。day1-3は飲水1000mL（day1は点滴終了までに500mL飲水させる）。					
②day2 デキサメタゾン（0.5）16錠 朝もしくは朝昼。					
③パロノセトロン投与時は、他の5HT3（内服を含む）制吐剤は原則使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg未満(サイクル1)	EGFR遺伝子エクソン20挿入変異陽性の非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ アロカリス注235mg デキサメタゾン注	0.75mg 1V 19.8mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 ペムトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 5	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
⑥	アミバンタマブ注 生理食塩液	350mg 250mL	点滴	4時間	day1
⑦	デキサメタゾン注 生理食塩液	9.9mg 50ml	点滴	15分	day 2, 8, 15
⑧	生理食塩液	100ml	点滴	45分	day 2, 8, 15
⑨	アミバンタマブ注 生理食塩液	1050mg 250mL	点滴	約5時間30分	day2
⑩	アミバンタマブ注 生理食塩液	1400mg 250mL	点滴	約4時間	day8
⑪	アミバンタマブ注 生理食塩液	1400mg 250mL	点滴	約3時間	day15
⑫	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1, 2, 8, 15
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間			1コース		

その他(特記事項など)

- ① CBDCAの投与量=AUC×(クレアチニンクリアランス(mL/min)+25)で計算。最大投与量は750mgまでである。
- ② パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペムトレキセド初回投与の7日前から開始し、ペムトレキセド最終投与日から22日目まで続行。
- ③ メチコバール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペムトレキセド初回投与の1週間前から施行し、その後ペムトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ④ パロノセトロン投与時は、他の5HT₃(内服を含む)制吐剤は使用しない。
- ⑤ デキサメタゾンは、アミバンタマブ投与開始45～60分前までに投与開始。ペムトレキセド投与開始前に前投薬(ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg)内服あり。これらはアミバンタマブ投与開始 30～60分前に投与する。
- ⑥ アミバンタマブ投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ⑦ アミバンタマブの投与には輸液ポンプを使用し、Day1は開始2時間は50ml/hで投与、その後75ml/hへ速度変更。Day2は開始2時間は33ml/hで投与、その後50ml/hへ速度変更。Day8は65ml/hで投与。Day15は85ml/hで投与。
- ⑧ アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg以上(サイクル1)	EGFR遺伝子エクソン20挿入変異陽性の非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ アロカリス注235mg デキサメタゾン注	0.75mg 1V 19.8mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 5	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
⑥	アミバンタマブ注 生理食塩液	350mg 250mL	点滴	4時間	day1
⑦	デキサメタゾン注 生理食塩液	9.9mg 50ml	点滴	15分	day 2, 8, 15
⑧	生理食塩液	100ml	点滴	45分	day 2, 8, 15
⑨	アミバンタマブ注 生理食塩液	1400mg 250mL	点滴	約6時間	day2
⑩	アミバンタマブ注 生理食塩液	1750mg 250mL	点滴	約4時間	day8
⑪	アミバンタマブ注 生理食塩液	1750mg 250mL	点滴	約3時間	day15
⑫	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1, 2, 8, 15
1コースの期間 3週間			投与スケジュール及び総コース数 1コース		

その他(特記事項など)

- ①CBDCAの投与量=AUC×(クレアチニンクリアランス(mL/min)+25)で計算。最大投与量は750mgまでである。
- ②パニバンタマブ1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の7日前から開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。
- ③メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間前から施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ④パロノセトロン投与時は、他の5HT₃(内服を含む)制吐剤は使用しない。
- ⑤デキサメタゾンは、アミバンタマブ投与開始45～60分前までに投与開始。ペメトレキセド投与開始前に前投薬(ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg)内服あり。これらはアミバンタマブ投与開始 30～60分前に投与する。
- ⑥アミバンタマブ投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ⑦アミバンタマブの投与には輸液ポンプを使用し、Day1は開始2時間は50mL/hで投与、その後75mL/hへ速度変更。Day2は開始2時間は25mL/hで投与、その後50mL/hへ速度変更。Day8は65mL/hで投与。Day15は85mL/hで投与。
- ⑧アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg未満(サイクル2-4)	EGFR遺伝子エクソン20挿入変異陽性の非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ アロカリス注235mg デキサメタゾン注	0.75mg 1V 19.8mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 ペムトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 5	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
⑥	アミバンタマブ注 生理食塩液	1400mg(サイクル2) 1750mg(サイクル3、4) 250mL	点滴	2時間	day1
⑦	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間			3コース		

その他(特記事項など)

①CBDCAの投与量=AUC×(クレアチニンクリアランス(mL/min)+25)で計算。最大投与量は750mgまでである。
 ②パロノセトロン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペムトレキセド初回投与の7日前から開始し、ペムトレキセド最終投与日から22日目まで続行。
 ③メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペムトレキセド初回投与の1週間前から施行し、その後ペムトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
 ④パロノセトロン投与時は、他の5HT₃(内服を含む)制吐剤は使用しない。
 ⑤ デキサメタゾンはアミバンタマブ投与開始45～60分前までに投与開始。ペムトレキセド投与開始前に前投薬(ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg)内服あり。これらはamivantamab投与開始30～60分前に投与する。
 ⑥アミバンタマブ投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
 ⑦アミバンタマブの投与には輸液ポンプを使用し、125mL/hで投与。
 ⑧アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mLになるようにして使用する。
 ⑨アミバンタマブは減量が必要な場合は以下のように減量し、維持投与において、予定用量の1400mgまたは1750mgまで増量できる。
 サイクル2(1400mg):1回目は1050mg、2回目は700mgに減量でき、3回目は中止とする。
 サイクル3-4(1750mg):1回目は1400mg、2回目は1050mgに減量でき、3回目は中止とする。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg以上(サイクル2-4)	EGFR遺伝子エクソン20挿入変異陽性の非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ アロカリス注235mg デキサメタゾン注	0.75mg 1V 19.8mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 ペムトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 5	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
⑥	アミバンタマブ注 生理食塩液	1750mg(サイクル2) 2100mg(サイクル3、4) 250mL	点滴	2時間	day1
⑦	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間			3コース		

その他(特記事項など)

- ① CBDCAの投与量=AUC×(クレアチニンクリアランス(mL/min)+25)で計算。最大投与量は750mgまでである。
- ② パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペムトレキセド初回投与の7日前から開始し、ペムトレキセド最終投与日から22日目まで続行。
- ③ メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペムトレキセド初回投与の1週間前から施行し、その後ペムトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ④ パロノセトロン投与時は、他の5HT₃(内服を含む)制吐剤は使用しない。
- ⑤ デキサメタゾンはアミバンタマブ投与開始45～60分前までに投与開始。ペムトレキセド投与開始前に前投薬(ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg)内服あり。これらはamivantamab投与開始30～60分前に投与する。
- ⑥ アミバンタマブ投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ⑦ アミバンタマブの投与には輸液ポンプを使用し、125mL/hで投与。
- ⑧ アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mLになるようにして使用する。
- ⑨ アミバンタマブは減量が必要な場合は以下のように減量し、維持投与において、予定用量の1750mgまたは2100mgまで増量できる。
- サイクル2(1750mg): 1回目は1400mg、2回目は1050mgに減量でき、3回目は中止とする。
- サイクル3-4(2100mg): 1回目は1750mg、2回目は1400mgに減量でき、3回目は中止とする。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg未満: サイクル5以降(維持療法)	EGFR遺伝子エクソン20挿入変異陽性の非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 デキサメタゾン注	100ml 9.9mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 ペトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	アミバンタマブ注 生理食塩液	1750mg 250mL	点滴	2時間	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間			PDまで		

その他(特記事項など)

- ① パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペトレキセド初回投与の7日前から開始し、ペトレキセド最終投与日から22日目まで続行。
- ② アミバンタマブの投与には輸液ポンプを使用し、125mL/hで投与する。
- ③ メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペトレキセド初回投与の1週間前から施行し、その後ペトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ④ デキサメタゾンはAmivantamab投与開始45～60分前までに投与開始。ペトレキセド投与開始前に前投薬(ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg)内服あり。これらはamivantamab投与開始30-60分前に投与する。
- ⑤ アミバンタマブ投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ⑥ アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mLになるようにして使用する。
- ⑦ アミバンタマブは減量が必要な場合、1回目は1400mg、2回目は1050mgに減量でき、3回目は中止とする。(維持投与において、1750mgまで再増量できる。)

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Amivantamab+CBDCA+PEM 80kg以上: サイクル5以降(維持療法)	EGFR遺伝子エクソン20挿入変異陽性の非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 デキサメタゾン注	100ml 9.9mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 ペムトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	アミバンタマブ注 生理食塩液	2100mg 250mL	点滴	2時間	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1 コースの期間 3週間			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		

その他(特記事項など)

- ① パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペムトレキセド初回投与の7日前から開始し、ペムトレキセド最終投与日から22日目まで続行。
- ② アミバンタマブの投与には輸液ポンプを使用し、125mL/hで投与する。
- ③ メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペムトレキセド初回投与の1週間前から施行し、その後ペムトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ④ デキサメタゾンはAmivantamab投与開始45～60分前までに投与開始。ペムトレキセド投与開始前に前投薬(ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg)内服あり。これらはamivantamab投与開始30～60分前に投与する。
- ⑤ アミバンタマブ投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ⑥ アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mLになるようにして使用する。
- ⑦ アミバンタマブは減量が必要な場合、1回目は1750mg、2回目は1400mgに減量でき、3回目は中止とする。(維持投与において、2100mgまで再増量できる。)

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Amrubicin	肺癌 胸腺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ 0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
②	5%ブドウ糖 250ml	1V	点滴	1時間	day1,2,3
④	生理食塩液 50mL カルセド	1V 40mg/m2	点滴 (側管)	15分	day1,2,3
1コースの期間 3～4週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで継続		
その他(特記事項など) ④は側管。④は②と同時に開始。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Atezolizumab+Bev維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	Atezolizumab 生理食塩液	1200mg/body 250mL	点滴	30-60分	day1
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
③	ベバシズマブ 生理食塩液	15mg/kg 100mL	点滴	30-90分	day1
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		

その他(特記事項など)

- ・投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・Atezolizumabは、生食バッグから生食20mLを抜き取った後に混注し、全量が250mLになるように調製する。投与時間は初回60(±15)分、問題なければ2回目30(±10)分で点滴可能。
- ・ベバシズマブは全量100mLとなるよう調製する。投与時間は初回90(±15)分、問題なければ2回目60(±10)分、3回目以降30(±10)分で点滴可能。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Atezolizumab維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	Atezolizumab 生理食塩液	1200mg/body 250mL	点滴	30-60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など) ・投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。 ・Atezolizumabは、生食バッグから生食20mLを抜き取った後に混注し、全量が250mLになるように調製する。投与時間は初回60(±15)分、問題なければ2回目30(±10)分で点滴可能。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
bev+CBDCA+PEM	扁平上皮癌を除く 非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート	1V 6.6mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液100mL アバスチン	1V 15mg/kg	点滴	30－90分	day1
③	生理食塩液100mL アリムタ	1V 500mg/m2	点滴	10分	day1
④	生理食塩液100mL	1V	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液250mL カルボプラチン	1V AUC 6	点滴	60分	day1
⑥	生食50ml	1V	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4～6コース継続		
その他(特記事項など) ・パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。 ・メチコバール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。 ・アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。 ・アバスチンは初回投与時90分、忍容性に問題なければ2回目60分、更に問題なければ3回目以降30分で点滴可能 ・6コース施行後は、PDまではアバスチンのみ維持療法として単剤施行する場合あり。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
bev + CDDP + PEM (short hydration)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 250mL プロイメンド注	1V 1V	点滴	30分	day1
②	アロキシバッグ デキサート注	1V 9.9mg	点滴	全開で	day1
③	アバステン 生理食塩液	15mg/kg 1V	点滴	全開で	day1
④	生食100ml アリムタ	1V 500mg/m ²	点滴	10分	day1
⑤	生理食塩液500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	1V 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑥	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑦	生食500ml シスプラチン	1V 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑧	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	1時間	day1
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4～6コース継続		

その他(特記事項など)

・シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml) + 生食(ml) = 500ml】になるようにして使用。上記レジメン終了時点で尿量が1L以下の場合はDr call。day2-3 デキサメタゾン8mg 朝または分2朝昼内服。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。パンプタン末1g/回 × 1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。メチコバル1000μg/回 × 1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。

・アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

・アバステンは初回90分施行し、忍容性に問題がなければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能

・アバステンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量100ml【アバステン(ml) + 生食(ml) = 100ml】になるようにして使用。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
bev + CDDP + PEM	扁平上皮癌を除く 非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液100mL アバスチン	合計100mL 15mg/kg	点滴 (側管)	30-90分	day1
側②	生理食塩液 100ml プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側③	アロキシバッグ デキサート	1V 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側①	生理食塩液 100mL デキサート	1V 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2,3
側④	生食100ml アリムタ	1V 500mg/m ²	点滴 (側管)	10分	day1
側⑤	生食100ml	1V	点滴 (側管)	30分	day1
側⑥	マンニトール	1V	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑦	生食500ml シスプラチン	合計500mL 75mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4～6コース継続		

その他(特記事項など)

- ・day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。
- ・パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。
- ・メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ・アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。
- ・アバスチンは初回90分施行し、忍容性に問題がなければ、2回目60分、3回目以降30分に短縮可能
- ・6コース施行後は、PDまではアバスチンのみ維持療法として単剤施行する場合あり。
- ・シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】になるようにして使用。
- ・アバスチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量100ml【アバスチン(ml)＋生食(ml)＝100ml】になるようにして使用。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
bev+PEM（維持療法）	扁平上皮癌を除く 非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注 生理食塩液	6.6mg 100mL	点滴	30分	day1
②	アリムタ 生理食塩液	500mg/m ² 100mL	点滴	10分	day1
③	アバステン 生理食塩液	15mg/kg 100mL	点滴	30～90分	day1
④	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日（3週間）			PDまで		

その他（特記事項など）

- ・パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。
- ・メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと（3コースごと）に続行。
- ・アロキシ投与時は、他の5HT3（内服を含む）制吐剤は原則使用しない。
- ・アバステンは初回投与時90分、忍容性に問題がなければ2回目60分、さらに3回目以降30分に短縮可能。
- ・本レジメンは、bev+ALIMTA+プラチナ製剤（CDDP又はCBDCA）後のメンテナンスに限る。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
bev+PTX（一括）+CBDCA（一括）	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg アロキシバッグ0.75mg	3V 1A 1A 1袋	点滴	全開	day1
②	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 100mL	点滴	30－90分	day1
③	パクリタキセル 生理食塩液	200mg/m ² 500mL	点滴	180分	day1
④	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=6 250mL	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 21日（3週間）			投与スケジュール及び総コース数 4コース、その後PDまでBv維持療法を行う		

その他（特記事項など）

- ・CBDCA（カルボプラチン）の投与量＝AUC×（GFR（ml/minr）+25）で計算。
- ・アバスチンは初回投与時90分、問題なければ2回目60分、3回目以降30分で点滴可能。
- ・アロキシ使用中は他の5HT3拮抗薬は原則として使用しない。
- ・扁平上皮癌には使用しない。
- ・day2, 3のDEX8mg内服を検討。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
bev+PTX (分割)+CBDCA (一括)	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg アロキシ注バッグ0.75mg	1V 1A 1A 1V	点滴	全開	day1
②	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 100mL	点滴	30－90分	day1
①'	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開	day8, 15
②'	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day8, 15
③	パクリタキセル 生理食塩液	70-80mg/m ² 250mL	点滴	60分	day1、8, 15
④	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=5-6 250mL	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1、8, 15
1コースの期間 28日(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 4週間1コースでPDまで継続 (標準治療期間6コース)		
その他(特記事項など) ・デキサートは6.6mg×1V又は6.6mg×3Vで使用。パクリタキセルは70-80mg/m ² で使用。 ・CBDCA(カルボプラチン)の投与量＝AUC×(24時間クレアチニクレアランス(ml/minr)+25)で計算。AUCは5－6に設定します。 ・アバスチンは初回投与時90分、問題なければ2回目60分、3回目以降30分で点滴可能。 ・扁平上皮癌には使用しない					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
bev + オシメルチニブ	肺腺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アバスチン 生理食塩液	15mg/kg 合計100mL	点滴	30～90分	day1
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
	オシメルチニブ	80mg	内服		day1～21
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日(3週間)			PDまで		
その他(特記事項など)					
・アバスチンは初回投与時90分、忍容性に問題がなければ2回目60分、さらに3回目以降30分に短縮可能。 ・オシメルチニブはアバスチンの初回投与日から開始して、80mgを1日1回服用。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Bevacizumab単剤	扁平上皮癌を除く 非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	ルートキープ 用 30分	day1
②	アバスチン 生理食塩液 100mL	15mg/kg 1瓶	点滴	30～90分	day1
③	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など) ・アバスチンは初回投与時90分、忍容性に問題がなければ2回目60分、さらに3回目以降30分に短縮可能。 ・本レジメンは、アバスチンを含む既存登録レジメンのメンテナンスに限る。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+ Weekly CPT-11	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1瓶	点滴	30分	day1
①'	グラニセトロンバッグ3mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day8,15
②	生理食塩液 250mL カンプト	1袋 50mg/m ²	点滴	90分	day1,8,15
③	生理食塩液 250mL カルボプラチン	1袋 AUC:6	点滴	60分	day1
④	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	全開 フラッシュ用	day1,8,15
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週間間隔			PDまで4コース程度継続		

その他(特記事項など)

CBDCA (カルボプラチン) の投与量＝AUC × (24時間クレアチニクレアランス (ml/minr) +25) で計算。
 AUCは4～6に設定します。副作用出現時はカルボプラチン、カンプトとも20－40%減量することあります。
 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+Docetaxel	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 250mL ドセタキセル	1袋 60mg/m ²	点滴	60分	day1
③	生理食塩液 250mL カルボプラチン	1袋 AUC:6	点滴	60分	day1
④	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	全開 フラッシュ用	day1
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間(21日間)			PDまで4コース程度継続		

その他(特記事項など)

CBDCAの投与量=AUC×(24時間クレアチニンクレアランス(ml/minr)+25)で計算。AUCは4～6に設定します。副作用出現時はドセタキセル、カルボプラチンとも20～40%減量することあります。アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA + GEM	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート注	1V 6.6mg	点滴	30分	day1
①'	デキサート注6.6mg 生理食塩液	1V 100mL	点滴	30分	day8
②	生理食塩液 ジェムザール	100mL 1000mg/㎡	点滴	30分	day1,8
③	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC=5	点滴	60分	day1
④	生食50ml	1V	点滴	全開	day1,8
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間間隔			PDまで4コース		
その他(特記事項など)					
・CBDCA(カルボプラチン)の投与量=AUC×(24時間クレアチニンクレアランス(ml/minr)+25)で計算。					
・day2,3のDEX 8mg内服を検討					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+nab-PTX+Atezolizumab	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
②	アテゾリズマブ 生理食塩水	1200mg/body 250mL	点滴	60-30分	Day1
③	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
側①	生理食塩水	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	Day1
側②	アブラキサン 生理食塩水	100mg/m ² 50mL(※)	点滴 (側管)	30分	Day1
側③	生理食塩水	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	Day1
側④	デキサート注 アロキシバッグ0.75mg	6.6mg 1袋	点滴 (側管)	30分	Day1
側⑤	カルボプラチン 生理食塩水	AUC=6 250mL	点滴 (側管)	60分	Day1
側⑥	生理食塩水	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	Day1
④	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day8, 15
⑤	アブラキサン 生理食塩水	100mg/m ² 50mL(※)	点滴	30分	Day8, 15
⑥	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day8, 15
1コースの期間 3週間(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4～6コース継続 その後アテゾリズマブ維持療法をPDまで		

その他(特記事項など)

- ・アブラキサン1バイアルに対し、生食20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。
- ・カルボプラチンの投与量=AUC×(GFR(mL/min)+25)で計算。
- ・アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則として使用しない。
- ・Day2,3のDEX 8mg内服を検討。
- ・アテゾリズマブ投与時は0.2～5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のインラインフィルターを使用して投与する。
- ・アテゾリズマブの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。
- ・アブラキサンはメインルートのフィルター下部の側管から、フィルターなしの輸液セットを使用して投与する。インラインフィルターには通さないこと。側①は③の投与終了後に開始し、側管の薬剤投与中はメインルートの点滴を中断する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA + nab-PTX + Pembrolizumab →Pembro維持療法	肺扁平上皮癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
②	Pembrolizumab 生理食塩水	200mg/body 100mL	点滴	30分	Day1
③	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
側①	生理食塩水	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	Day1
側②	アブラキサン 生理食塩水	100mg/m ² 50mL(※)	点滴 (側管)	30分	Day1
側③	生理食塩水	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	Day1
側④	デキサート注 アロキシバッグ0.75mg	6.6mg 1袋	点滴 (側管)	30分	Day1
側⑤	カルボプラチン 生理食塩水	AUC=6 250mL	点滴 (側管)	60分	Day1
側⑥	生理食塩水	50mL	点滴 (側管)	フラッシュ	Day1
④	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day8, 15
⑤	アブラキサン 生理食塩水	100mg/m ² 50mL(※)	点滴	30分	Day8, 15
⑥	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day8, 15

1コースの期間 3週間(21日)	投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後Pembrolizumab維持療法をPDまで ただし、35サイクルまで
-------------------------	---

その他(特記事項など) ・アブラキサン1バイアルに対し、生食20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・カルボプラチンの投与量=AUC×(GFR(mL/min)+25)で計算。 ・アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則として使用しない。 ・Day2,3のDEX 8mg内服を検討。 ・Pembrolizumab投与時は0.2～5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のインラインフィルターを使用して投与する。 ・Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。 ・アブラキサンはメインルートのフィルター下部の側管から、フィルターなしの輸液セットを使用して投与する。インラインフィルターには通さないこと。側①は③の投与終了後に開始し、側管の薬剤投与中はメインルートの点滴を中断する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+Paclitaxel+Bev+Atezolizumab →Bev + Atezolizumab維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	Atezolizumab 生理食塩液	1200mg/body 250mL	点滴	30-60分	day1
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
③	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg アロキシバッグ0.75mg	3V 1A 1A 1袋	点滴	30分	day1
④	ベバシズマブ 生理食塩液	15mg/kg 100mL	点滴	30-90分	day1
⑤	パクリタキセル 生理食塩液	200mg/m ² 500mL	点滴	180分	day1
⑥	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=6 250mL	点滴	60分	day1
⑦	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 4-6コース 維持療法はPDまで		

その他(特記事項など)

- ・投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・Atezolizumabは、生食バッグから生食20mLを抜き取った後に混注し、全量が250mLになるように調製する。投与時間は初回60(±15)分、問題なければ2回目30(±10)分で点滴可能。
- ・CBDCA(カルボプラチン)の投与量=AUC×(GFR(mL/min)+25)で計算。
- ・ベバシズマブは全量100mLとなるよう調製する。投与時間は初回90(±15)分、問題なければ2回目60(±10)分、3回目以降30(±10)分で点滴可能。
- ・day2,3のDEX 8mg内服を検討。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+PEM（高齢者用）	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート	1V 6.6mg	点滴	30分	day1
②	生食100ml アリムタ	1V 500mg/m2	点滴	10分	day1
③	生食100ml	1V	点滴	30分	day1
④	生食250ml カルボプラチン	1V AUC 5	点滴	60分	day1
⑤	生食50ml	1V	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 4コース、その後アリムタ維持療法をPDまで行う		
その他(特記事項など) CBDCAの投与量＝AUC×（24時間クレアチニクレアランス(ml/minr)+25)で計算。AUCは若年者6、高齢者5に設定します。 パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。 メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。 day2, 3のDEX8mg内服を検討。 75歳以上を高齢者と想定する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+PEM	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート	1V 6.6mg	点滴	30分	day1
②	生食100ml アリムタ	1V 500mg/m2	点滴	10分	day1
③	生食100ml	1V	点滴	30分	day1
④	生食250ml カルボプラチン	1V AUC 6	点滴	60分	day1
⑤	生食50ml	1V	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 4コース、その後アリムタ維持療法をPDまで行う		
その他(特記事項など) CBDCAの投与量＝AUC×(24時間クレアチンクレアランス(ml/minr)+25)で計算。AUCは若年者6、高齢者5に設定します。 パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。 メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。 day2, 3のDEX8mg内服を検討。 75歳以上を高齢者と想定する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+PEM+Atezolizumab	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	アテゾリズマブ 生理食塩液	1200mg/body 250mL	点滴	60-30分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	アロキシバッグ デキサート注	0.75mg 6.6mg	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
⑥	生理食塩液	100mL	点滴	30分	day1
⑦	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 5	点滴	60分	day1
⑧	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後アテゾリズマブ+ペメトレキセド維持療法をPDまで行う。		

その他(特記事項など)

- ①カルボプラチンの投与量=AUC×(クレアチニクレアランス(mL/min)+25)で計算。
- ②パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。
- ③メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ④アロキシ投与時は、他の5HT₃(内服を含む)制吐剤は使用しない。
- ⑤day2,3のDEX 8mg内服を検討。(アラートに出るように)
- ⑥アテゾリズマブはインラインフィルター(0.2~1.2μm)を使用して投与する。

がん薬物療法レジメン

申請診療科	呼吸器内科・腫瘍内科	申請日	令和6年6月24日
記入医師名	加藤 真衣	登録(改訂)日	
診療科長名	山本 信之	登録番号	

プロトコール名	対象がん種	適応分類
CBDCA+PEM+Osimertinib	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ アロカリス注235mg デキサート注	1袋 1瓶 3.3mg	点滴	30分	day1
②	生理食塩液100mL ペメトレキセド	1瓶 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	30分	day1
④	生理食塩液250mL カルボプラチン	1瓶 AUC=5	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
	オシメルチニブ	80mg	内服		連日
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース、その後PEM維持療法をPDまで		

その他(特記事項など)

- ①CBDCAの投与量=AUC×(24時間クレアチニンクリアランス(ml/minr)+25)で計算。AUCは若年者6、高齢者5に設定する。
- ②パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ③パロノセトロン投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。
- ④75歳以上を高齢者と想定する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA + PEM + Pembrolizumab → Pem + Pembro維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	Pembrolizumab 生理食塩液	200mg/body 100mL	点滴	30分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	アロキシバッグ デキサート注	0.75mg 6.6mg	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m2	点滴	10分	day1
⑥	生理食塩液	100mL	点滴	30分	day1
⑦	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 5	点滴	60分	day1
⑧	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後Pembrolizumab＋ペメトレキセド維持療法をPDまで行う。 ただし、Pembrolizumab維持は35サイクルまで		
その他(特記事項など)					
①カルボプラチンの投与量＝AUC×(クレアチニクレアランス(mL/min)+25)で計算。 ②パニタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。 ③メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。 ④アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。 ⑤day2,3のDEX 8mg内服を検討。(アラートに出るように) ⑥Pembrplizumabはインラインフィルター(0.2～1.2μm)を使用して投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+PTX (CRT後専用)	肺癌 胸腺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg アロキシバッグ0.75mg	3V 1A 1A 1袋	点滴	全開	day1
②	生理食塩液	100mL	点滴	30分	day1
③	パクリタキセル 生理食塩液	200mg/㎡ 500mL	点滴	180分	day1
④	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=5 250mL	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日(3週間)			2コース		

その他(特記事項など)

- ・CBDCA(カルボプラチン)の投与量=AUC×(GFR(ml/minr)+25)で計算。
- ・アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則として使用しない。
- ・day2,3のDEX 8mg内服を検討

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA + PTX + Pembrolizumab →Pembro維持療法	肺扁平上皮癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
②	Pembrolizumab 生理食塩水	200mg/body 100mL	点滴	30分	Day1
③	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
④	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg アロキシバッグ0.75mg	3V 1A 1A 1袋	点滴	全開	Day1
⑤	生理食塩水	100mL	点滴	30分	Day1
⑥	パクリタキセル 生理食塩水	200mg/㎡ 500mL	点滴	180分	Day1
⑦	カルボプラチン 生理食塩水	AUC=6 250mL	点滴	60分	Day1
⑧	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
1コースの期間 3週間(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後Pembrolizumab維持療法をPDまで ただし、35サイクルまで		
その他(特記事項など) ・カルボプラチンの投与量＝AUC×(GFR(mL/min)＋25)で計算。 ・アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則として使用しない。 ・Day2,3のDEX 8mg内服を検討。 ・0.2～5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のインラインフィルターを使用して投与する。 ・Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA + Vinorelbine	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
①	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	ルート キープ用	day8
②	生理食塩液 50mL ナベルビン	1瓶 25mg/㎡	点滴	全開で	day1,8
③	生理食塩液 250mL カルボプラチン	1袋 AUC:6	点滴	60分	day1
④	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	全開 フラッシュ用	day1
⑤	ソルデム3A 200mL	1袋	点滴	60分	day8
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間（3週間）			PDまで4コース程度継続		
その他(特記事項など)					
CBDCAの投与量＝AUC × (24時間クレアチニンクレアランス (ml/minr)+25) で計算。AUCは4～6に設定します。Day1は①→②→③→④で、Day8は①(生食のみ)でルートキープ後→②→⑤の順番です。副作用出現時はカルボプラチン、ナベルビンとも20－40%減量することあります。アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+VP-16	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注 アロキシバッグ0.75mg	6.6mg 1V	点滴	30分	day 1
②	生理食塩液 100mL デキサート注	1V 6.6mg	点滴	30分	day 2,3
③	生食500mL エトポシド	1V 80mg/m2	点滴	2時間	day 1,2,3
④	生食250mL カルボプラチン	1V AUC 5	点滴	60分	day1
⑤	生食50ml	1V	点滴	全開 フラッシュ用	day 1,2,3
1コースの期間 3週間(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース		
その他(特記事項など) CBDCA(カルボプラチン)の投与量＝AUC×(24時間クレアチニンクレアランス(ml/minr)+25)で計算。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CBDCA+VP-16+Atezolizumab → Atezolizumab維持療法	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
②	Atezolizumab 生理食塩液	1200mg/body 250mL	点滴	30-60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	デキサート注6.6mg ガスター20mg アロキシバッグ0.75mg	1V 1A 1袋	点滴	30分	day1
⑤	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=5 250mL	点滴	60分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
⑦	デキサート注6.6mg 生理食塩液	1V 100mL	点滴	30分	day2,3
側①	エトポシド 生理食塩液	100mg/m2 500mL	点滴	120分	day1,2,3
側②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1,2,3
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 4コース 維持療法はPDまで		

その他(特記事項など)

- ・アテゾリズマブの投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・エトポシドは輸液フィルターを変性させるため、フィルターの下部の側管から投与する。側①は⑥の投与終了後に開始し、エトポシドの投与中はメインルートの点滴を中断する。
- ・day2, 3のエトポシド投与時はPVCフリーのフィルターなしの輸液セットを使用する。
- ・アテゾリズマブは、生食バッグから生食20mLを抜き取った後に混注し、全量が250mLになるように調製する。投与時間は初回60(±15)分、問題なければ2回目以降30(±10)分で点滴可能。
- ・CBDCA(カルボプラチン)の投与量=AUC×(GFR(mL/min)+25)で計算。
- ・導入療法4コース後にAtezolizumab維持療法に移行する

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
CBDCA+VP-16+Durvalumab	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	Durvalumab 生理食塩液	1500mg/body 250mL	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	デキサート注 アロキシバッグ	6.6mg 0.75mg	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC=5	点滴	60分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
⑦	デキサート注 生理食塩液	6.6mg 100mL	点滴	30分	day2,3
側①	生理食塩液 エトポシド	500mL 100mg/m ²	点滴	90分	day 1,2,3
側②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day 1,2,3
3週間(21日)			4コース継続、その後Durvalumab維持療法をPDまで行う。		

その他(特記事項など)

- ・Durvalumabの投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・エトポシドは輸液フィルターを変性させるため、フィルターの下部の側管から投与する。側①は⑥の投与終了後に開始し、エトポシドの投与中はメインルートの点滴を中断する。
- ・day2, 3のエトポシド投与時はPVCフリーのフィルターなしの輸液セットを使用する。
- ・CBDCA(カルボプラチン)の投与量=AUC×(GFR(mL/min)+25)で計算。
- ・導入療法4コース後にDurvalumab維持療法に移行する
- ・体重30kg以下の場合のDurvalumabの1回投与量は20mg/kg(体重)とする。

がん化学療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+CPT-11	肺非小細胞癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500mL	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500ml 硫酸Mg補正液1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100ml プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ0.75mg デキサート	1V 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 250mL カンプト	1V 60mg/m ²	点滴 (側管)	90分	day1
側④	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生理食塩液 500mL シスプラチン	1V 80mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑥	生理食塩液 100mL デキサート注6.6mg	1V 1瓶	点滴 (側管)	30分	day2,3
⑤	アロキシバッグ0.75mg デキサート6.6mg ガスター20mg	1V 1V 1A	点滴	30分	day8,15
⑥	生理食塩液 250mL カンプト	1V 60mg/m ²	点滴	90分	day8,15
⑦	生理食塩液 50mL	1V	点滴	フラッシュ	day8,15
1コースの期間 4週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4コース程度継続		

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。側①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。

アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名		対象がん種		適応分類	
CDDP+CPT-11(小細胞肺がん)		小細胞肺癌		☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他	

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500ml	1袋	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1袋 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500ml	1袋	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500ml	1袋	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100ml プロイメンド注	1瓶 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 250mL カンプト	1袋 60mg/m ²	点滴 (側管)	90分	day1
側④	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生理食塩液 500mL シスプラチン	1瓶 60mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑥	生理食塩液 100ml デキサート注6.6mg	1瓶 1V	点滴 (側管)	30分	day2,3
⑤	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day8,15
⑥	生理食塩液 250mL カンプト	1袋 60mg/m ²	点滴	90分	day8,15
⑦	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day8,15
1コースの期間 4週間間隔 (day15が投与できないときは3週間間隔とする)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4コース継続		

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500mL】になるようにして使用。側管①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名		対象がん種	適応分類		
CDDP＋CPT-11小細胞肺癌(short hydration)		小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他		
順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 250mL プロイメンド注	1V 1V	点滴	30分	day1
②	アロキシバッグ デキサート注	1V 9.9mg	点滴	全開で	day1
③	生食250ml トポテシン	1V 60mg/m2	点滴	90分	day1
④	生理食塩液500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	1V 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑤	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑥	生食500ml シスプラチン	1V 60mg/m2	点滴	1時間	day1
⑦	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	1時間	day1
⑧	アロキシバッグ デキサート注	1V 6.6mg	点滴	30分	day8,15
⑨	生食250ml トポテシン	1V 60mg/m2	点滴	90分	day8,15
⑩	生理食塩液50mL	1V	点滴	フラッシュ	day8,15
1コースの期間 4週間間隔 (day15が投与できないときは3週間隔とする)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4コース継続		
その他(特記事項など) シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】になるようにして使用。上記レジメン終了時点で尿量が1L以下の場合はDr call。day2-3 デキサメタゾン(0.5) 16錠 朝または分2朝昼。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+Docetaxel	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500mL	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100mL プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ0.75mg ポララミン注 デキサート注6.6mg	1V 1A 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 250mL ドセタキセル	1V 60mg/m ²	点滴 (側管)	1時間	day1
側④	マンニトール300mL	1V	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生理食塩液 500mL シスプラチン	1V 80mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側①	生理食塩液 100mL デキサート6.6mg	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day2,3
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間(21日間)			PDまで4コース継続		
その他(特記事項など)					
シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL)＋生食(mL)＝500mL】になるようにして使用。側①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP＋GEM (short hydration)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 250mL プロイメンド注	1V 1V	点滴	30分	day1
②	アロキシバッグ デキサート注	1V 9.9mg	点滴	全開で	day1
③	生食100ml ジェムザール	1V 1000mg/m ²	点滴	30分	day1
④	生理食塩液500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	1V 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑤	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑥	生食500ml シスプラチン	1V 80mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑦	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	1時間	day1
⑧	生食100ml デキサート	1V 6.6mg	点滴	30分	day8
⑨	生食100ml ジェムザール	1V 1000mg/m ²	点滴	30分	day8
⑩	生理食塩液50mL	1V	点滴	フラッシュ	day8
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4-6コース継続		

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】になるようにして使用。上記レジメン終了時点で尿量が1L以下の場合はDr call。day2-3 デキサメタゾン(0.5) 16錠 朝または分2朝昼。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲む水させる)。

アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+GEM	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生食 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生食 500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100mL プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ デキサート	1V 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生食100ml ジェムザール	1V 1000mg/m ²	点滴 (側管)	30分	day1
側④	マンニトール300ml	1V	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生食500ml シスプラチン	合計500mL 80mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑥	生理食塩液 100mL デキサート	1V 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2,3
⑤	生理食塩液 100mL デキサート	1V 6.6mg	点滴	30分	day8
⑥	生食100ml ジェムザール	1V 1000mg/m ²	点滴	30分	day8
⑦	生理食塩液 50mL	1V	点滴	フラッシュ	day8

1コースの期間

3週間間隔(21日)

投与スケジュール及び総コース数

PDまで4-6コース継続

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml) + 生食(ml) = 500ml】になるようにして使用。側管①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。

アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
CDDP + GEM + ネシツムマブ	非小細胞肺癌 (扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	ネシツムマブ 生理食塩液	800mg/body 200mL	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	生理食塩液 プロイメンド注	250mL 150mg	点滴	30分	day1
⑤	アロキシバッグ デキサート注	0.75mg 9.9mg	点滴	全開で	day1
⑥	5%ブドウ糖溶液 ゲムシタビン	250mL 1250mg/m ²	点滴	30分	day1
⑦	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑧	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑨	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑩	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day8
②	ネシツムマブ 生理食塩液	800mg/body 200mL	点滴	60分	day8
③	生理食塩液 デキサート	100mL 6.6mg	点滴	30分	day8
④	5%ブドウ糖溶液 ゲムシタビン	250ml 1250mg/m ²	点滴	30分	day8
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day8
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース		

その他(特記事項など)

①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。必要時にDay2,3にDEX 8mg内服 朝もしくは朝昼で検討。

②アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

③インラインフィルターは不要。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+PEM (short hydration)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 250mL プロイメンド注	1V 1V	点滴	30分	day1
②	アロキシバッグ デキサート注	1V 9.9mg	点滴	全開で	day1
③	生食100ml アリムタ	1V 500mg/m ²	点滴	10分	day1
④	生理食塩液500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	1V 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑤	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑥	生食500ml シスプラチン	1V 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑦	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	1時間	day1
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4～6コース継続		

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】になるようにして使用。上記レジメン終了時点で尿量が1L以下の場合はDr call。day2-3 デキサメタゾン(0.5) 16錠 朝または分2朝昼。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+PEM	非小細胞肺癌 悪性胸膜中皮腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100ml プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ デキサート注6.6mg	1V 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 100mL アリムタ	1V 500mg/m ²	点滴 (側管)	10分	day1
側④	生理食塩液 100mL	1V	点滴 (側管)	30分	day1
側⑤	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑥	生理食塩液 500mL シスプラチン	1V 75mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑦	生理食塩液 100mL デキサート注6.6mg	1V 1瓶	点滴 (側管)	30分	day2,3
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4～6コース継続		
その他(特記事項など) シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】 になるようにして使用。側①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリ ムタ最終投与日から22日目まで続行。メチコバール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投 与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3 コースごと)に続行。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。 悪性胸膜中皮腫:術前3コース、進行再発4～6コース とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+PEM+Atezolizumab(ショート)	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	アテゾリズマブ 生理食塩液	1200mg/body 250mL	点滴	60-30分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	生理食塩液 プロイメンド注	250mL 150mg	点滴	30分	day1
⑤	アロキシバグ デキサート注	0.75mg 9.9mg	点滴	全開で	day1
⑥	生理食塩液 ペトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
⑦	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑧	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑨	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑩	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1

1コースの期間 3週間間隔(21日)	投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後Atezolizumab+ペトレキセド維持療法をPDまで行う。
---------------------------	--

その他(特記事項など) ①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL)+生食(mL)=500mL】になるようにして使用。終了時点での蓄尿量が1000mL以下のとき、Dr call。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。day2-3 デキサメタゾン(0.5)16錠 朝もしくは朝昼。 ②パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペトレキセド最終投与日から22日目まで続行。メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。 ③アロキシ投与時は、他の5HT ₃ (内服を含む)制吐剤は原則使用しない。 ④Atezolizumabはインラインフィルター(0.2~1.2μm)を使用して投与する。
--

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+PEM+Atezolizumab	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	アテゾリズマブ 生理食塩液	1200mg/body 250mL	点滴	60-30分	day1
③	生理食塩液	500mL	点滴	2時間	day1,2,3
④	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	500mL 10mL	点滴	2時間	day1
⑤	ソルデム3A	500mL	点滴	2時間	day1,2,3
⑥	ソルデム3A	500mL	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 プロイメンド注	100mL 150mg	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバグ デキサート注	0.75mg 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴 (側管)	10分	day1
側④	生理食塩液	100mL	点滴 (側管)	30分	day1
側⑤	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑥	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑦	生理食塩液 デキサート注	100mL 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2,3
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後Atezolizumab+ペメトレキセド維持療法をPDまで行う。		

その他(特記事項など)

①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL)+生食(mL)=500mL】になるようにして使用。側管①は③の開始90分後に開始する。点滴開始時～側⑥終了時の蓄尿量が1500mL以下のときラシックス20mg静注。

②パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。

③アロキシ投与時は、他の5HT₃(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

④Atezolizumabはインラインフィルター(0.2～1.2μm)を使用して投与する。

がん薬物療法レジメン

申請診療科	呼吸器内科・腫瘍内科	申請日	令和6年6月24日
記入医師名	加藤 真衣	登録(改訂)日	
診療科長名	山本 信之	登録番号	

プロトコール名	対象がん種	適応分類
CDDP+PEM+Osimertinib	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液500mL	1瓶	点滴	2時間	day1 2 3
②	生理食塩液500mL 硫酸Mg補正液1mEq/mL	1瓶 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A500mL	1瓶	点滴	2時間	day1 2 3
④	ソルデム3A500mL	1瓶	点滴	2時間	day1
側①	パロノセトロンバッグ アロカリス注235mg デキサート注	1袋 1瓶 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側②	生理食塩液100mL ペメトレキセド	1瓶 500mg/m ²	点滴 (側管)	10分	day1
側③	生理食塩液100mL	1瓶	点滴 (側管)	30分	day1
側④	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生理食塩液500mL シスプラチン	1瓶 75mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側	生理食塩液100mL デキサート注	1瓶 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2 3
	オシメルチニブ	80mg	内服		連日

1コースの期間	投与スケジュール及び総コース数
3週間間隔(21日)	4コース、その後PEM維持療法をPDまで

その他(特記事項など)

①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。側①は②と同時に開始。Day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDrcall。

②パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。

③パロノセトロン投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+PEM + Pembrolizumab-ショート →Pem + Pembro維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	Pembrolizumab 生理食塩液	200mg/body 100mL	点滴	30分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
④	生理食塩液 プロイメンド注	250mL 150mg	点滴	30分	day1
⑤	アロキシバグ デキサート注	0.75mg 9.9mg	点滴	全開で	day1
⑥	生理食塩液 ペメトレキシド	100mL 500mg/m2	点滴	10分	day1
⑦	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑧	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑨	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m2	点滴	1時間	day1
⑩	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1

1コースの期間

3週間間隔(21日)

投与スケジュール及び総コース数

4コース継続、その後Pembrolizumab+ペメトレキシド維持療法をPDまで行う。
ただし、Pembrolizumab維持は35サイクルまで

その他(特記事項など)

- ①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL)+生食(mL)=500mL】になるようにして使用。終了時点での蓄尿量が1000mL以下のとき、Dr call。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。day2-3 デキサメタゾン(0.5)16錠 朝もしくは朝昼。
- ②パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキシド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキシド最終投与日から22日目まで続行。メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキシド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキシド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ③アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。
- ④Pembrolizumabはインラインフィルター(0.2~1.2μm)を使用して投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP + PEM + Pembrolizumab-ロング →Pem + Pembro維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	Pembrolizumab 生理食塩液	200mg/body 100mL	点滴	30分	day1
③	生理食塩液	500mL	点滴	2時間	day1,2,3
④	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	500mL 10mL	点滴	2時間	day1
⑤	ソルデム3A	500mL	点滴	2時間	day1,2,3
⑥	ソルデム3A	500mL	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 プロイメンド注	100mL 150mg	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ デキサート注	0.75mg 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m2	点滴 (側管)	10分	day1
側④	生理食塩液	100mL	点滴 (側管)	30分	day1
側⑤	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑥	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m2	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑦	生理食塩液 デキサート注	100mL 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2,3
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後Pembrolizumab+ペメトレキセド維持療法をPDまで行う。 ただし、Pembrolizumab維持は35サイクルまで		

その他(特記事項など)

- ①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。側管①は③の開始90分後に開始する。点滴開始時～側⑥終了時の蓄尿量が1500mL以下のときラシックス20mg静注。
- ②パナビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ③アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。
- ④Pembrolizumabはインラインフィルター(0.2～1.2μm)を使用して投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
CDDP+S-1+RT	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ点滴バッグ0.75mg	1袋	点滴	30分	day1
	デキサート注	9.9mg			
	アロカリス点滴静注235mg	1瓶			
②	生理食塩液500mL	1袋	点滴	60分	day1
	硫酸Mg補正液1mEq/mL	10mL			
	KCL注キット 1mEq/mL	10mL			
③	20%マンニトール注射液	300mL	点滴	30分	day1
④	シスプラチン	60mg/m ²	点滴	60分	day1
	生理食塩液500mL	1袋			
⑤	ソルデム3A 500mL	1袋	点滴	60分	day1
⑥	TS-1	40mg/m ²	内服		day1-14
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日			最大4コース (RT併用は2コースまで)		
その他(特記事項など)					
・点滴終了時点での尿量が1000mL以下の時、Dr call ・day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる) ・必要に応じてジプレキサ5mg day1-4、デカドロン8mg day2-4を使用					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP + Vinorelbine (short hydration)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 250mL プロイメンド注	1V 1V	点滴	30分	day1
②	アロキシバッグ デキサート注	1V 9.9mg	点滴	全開で	day1
③	生理食塩液50mL ナベルビン	1V 25mg/m ²	点滴	全開で	day1
④	生理食塩液500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	1V 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑤	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液500mL シスプラチン	1V 80mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑦	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	1時間	day1
⑧	ソルデム3A 200mL	1V	点滴	30分	day8
側	生食50mL ナベルビン	1V 25mg/m ²	点滴 (側管)	全開で	day8

1コースの期間

3週間(21日)

投与スケジュール及び総コース数

進行再発: PDまで4~6コース継続
術後補助療法: 4コース

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml) + 生食(ml) = 500ml】になるようにして使用。Day8の側は⑧と同時に開始。上記レジメン終了時点で尿量が1L以下の場合
はDr call。day2-3 デキサメタゾン (0.5) 16錠 朝または分2朝昼。day1-3は飲水1000mL (day1は点滴
終了までに500mL飲水させる)。

アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+Vinorelbine (放射線併用)	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100mL プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ 0.75mg デキサート	1V 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側①′	生理食塩液 100mL デキサート6.6mg	1V 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2,3
側③	生食50ml ナベルビン	1V 20mg/m2	点滴 (側管)	全開で	day1
側④	マンニトール300mL	1V	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生食500ml シスプラチン	1V 80mg/m2	点滴 (側管)	2時間	day1
⑤	ソルデム3A 200mL	1V	点滴	30分	day8
側①′′	生食50ml ナベルビン	1V 20mg/m2	点滴 (側管)	全開で	day8
1コースの期間 4週間(28日)			投与スケジュール及び総コース数 4週毎に2コース (60Gy(1回2Gy)の胸部放射線療と併用)		
その他(特記事項など) シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】になるようにして使用。側①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。 化学放射線療法終了後はCDDP(80mg/m ²)+VRB(20mg/m ²)療法を3～4週毎に2コース追加する					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP + Vinorelbine	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500mL	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100mL プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1V 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 50mL ナベルビン	1V 25mg/m ²	点滴 (側管)	全開で	day1
側④	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生理食塩液 500mL シスプラチン	1V 80mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑥	生理食塩液 100mL デキサート注6.6mg	1V 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2,3
⑤	ソルデム3A 200mL	1V	点滴	30分	day8
側⑦	生理食塩液 50mL ナベルビン	1V 25mg/m ²	点滴 (側管)	全開で	day8

1コースの期間

3週間(21日)

投与スケジュール及び総コース数

PDまで4～6コース継続
術後補助療法には4コース

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。側①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。
アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+VP-16	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1
③	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
④	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1
側①	生理食塩液 100ml プロイメンド注	1V 1V	点滴 (側管)	30分	day1
側②	アロキシバッグ0.75mg デキサート注6.6mg	1V 9.9mg	点滴 (側管)	30分	day1
側③	生理食塩液 500ml エトポシド	1V 100mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側④	20%マンニトール	300mL	点滴 (側管)	1時間	day1
側⑤	生理食塩液 500ml シスプラチン	1V 80mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day1
側⑥	生理食塩液 100mL デキサート	1V 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day2,3
側⑦	生理食塩液 500ml エトポシド	1V 100mg/m ²	点滴 (側管)	2時間	day2,3
1コースの期間 3週間(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4コース継続		

その他(特記事項など)

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500mL】になるようにして使用。側①は②と同時に開始。day1のレジメン終了時の蓄尿量が1L以下のときはDr call。

アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CDDP+VP-16 (short hydration)	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 250mL プロイメンド注	1V 1V	点滴	30分	day1
②	アロキシバッグ デキサート注	1V 9.9mg	点滴	全開で	day1
③	生食500ml エトポシド	1V 100mg/m ²	点滴	90分	day1
④	生理食塩液500mL 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	1V 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑤	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑥	生食500ml シスプラチン	1V 80mg/m2	点滴	1時間	day1
⑦	ソルデム3A 500mL	1V	点滴	1時間	day1
⑤	生食100ml デキサート注	1V 6.6mg	点滴	30分	day2,3
⑥	生食500ml エトポシド	1V 100mg/m ²	点滴	90分	day2,3
⑦	生食50ml	1V	点滴	フラッシュ	day2,3
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4コース継続		
その他(特記事項など) シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】になるようにして使用。上記レジメン終了時点で尿量が1L以下の場合はDr call。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
CDDP+VP-16+Durvalumab(シヨート)	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	Durvalumab 生理食塩液	1500mg/body 250mL	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
側①	生理食塩液 プロイメンド注	250mL 150mg	点滴	30分	day1
側②	アロキシバッグ デキサート注	0.75mg 9.9mg	点滴	全開で	day1
側③	生理食塩液 デキサート注	100mL 6.6mg	点滴	30分	day2,3
側④	生理食塩液 エトポシド	500mL 100mg/m ²	点滴	90分	day1,2,3
側⑤	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
側⑥	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
側⑥	生理食塩液 シスプラチン	500mL 80mg/m ²	点滴	1時間	day1
側⑦	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1
側⑧	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day2,3
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース継続、その後Durvalumab維持療法をPDまで行う。		

その他(特記事項など)

①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。終了時点での蓄尿量が1000mL以下のとき、Dr call。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。

②アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。

③Durvalumabはインラインフィルター(0.2~1.2μm)を使用して投与する。④

エトポシドは輸液フィルターを変性させるため、フィルターの下部の側管から投与する。側①は③の投与終了後に開始し、エトポシドの投与中はメインルートの点滴を中断する。

⑤day2, 3のエトポシド投与時はPVCフリーのフィルターなしの輸液セットを使用する。

⑥CBDCA(カルボプラチン)の投与量=AUC × (GFR(mL/min)+25)で計算。⑦

体重30kg以下の場合のDurvalumabの1回投与量は20mg/kg(体重)とする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
CODE療法第1週	胸腺腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ソルデム3A	500mL	点滴	120分	day1
②	生理食塩液	500mL	点滴	120分	day1
側①	グラニセトロンバッグ3mg デキサート	1袋 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day1
側②	オンコビン 生理食塩液	1mg/m ² (max2mg/body) 50mL	点滴 (側管)	全開	day1
側③	ドキシソルビシン 生理食塩液	40mg/m ² 50mL	点滴 (側管)	15分	day1
側④	エトポシド ブドウ糖5%	80mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day1
側⑤	シスプラチン 生理食塩液	25mg/m ² 250mL	点滴 (側管)	60分	day1
③	デキサート 生理食塩液	6.6mg 100mL	点滴	30分	day2,3
④	エトポシド ブドウ糖5%	80mg/m ² 250mL	点滴	60分	day2,3
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	5分	day2,3
⑥	フィルグラスチム	75 μg	皮下注射	ワンショット	day4-7
1コースの期間 1週間			投与スケジュール及び総コース数 1コースで終了。		

その他(特記事項など)

CODE療法は9週間で1コースとし、1コースで終了。

化学療法を行わない日はグランを連日投与する(WBC>10000/μLの場合を除く)。

シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量250mL【シスプラチン(mL)+生食(mL)=250mL】となるようにして使用。

側①は①と同時に開始。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Docetaxel単剤療法	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
②	生食250ml ドセタキセル	1袋 60mg/m2	点滴	60分	day1
③	生食50ml	1V	点滴	全開 フラッシュ用	day1
1コースの期間 3-4週間間隔(1投2-3休)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4コース程度継続		
その他(特記事項など) ドセタキセルは、副作用出現時、20-40%減量することあります。グラニセトロンバッグにガスターを添加する場合あり					

がん薬物療法レジメン

プロトコール名	対象がん種	適応分類
DTX + GEM(肉腫)	進行軟部肉腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトロンバッグ0.75mg デキサート注	1袋 6.6mg	点滴	30分	day1 8
②	ゲムシタビン 生理食塩水	900mg/m ² 100mL	点滴	30分	day1 8
③	ドセタキセル 生理食塩水	70 mg/m2 250mL	点滴	60分	day 8
④	生理食塩水	250mL	点滴	全開	day1 8
1コースの期間 21日間(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 ドセタキセルtriweekly、ゲムシタビンは2投1休とする。PDまで継続。		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
DTX + Ram	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg デカドロン6.6mg ポララミン 5mg	1袋 1V 1V	点滴	30分	day1
②	サイラムザ 生食250mL	10mg/kg 1V	点滴	1時間	day1
③	生食100mL	1V	点滴	30分	day1
④	生食250ml ドセタキセル	1V 60mg/m2	点滴	1時間	day1
⑤	生食100mL	1V	点滴	30分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間間隔			PDまで継続		

その他(特記事項など)

サイラムザは必要量を注射筒で抜き取り、点滴静注用容器にて日局生理食塩液と混和して全量250mLとする。

サイラムザの投与にあたっては、蛋白質透過型のフィルター(0.2 又は0.22 ミクロン)を使用し、他の薬剤と同じラインを使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Durvalumab維持療法	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	イミフィンジ 生理食塩液	1500mg/body 250mL	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週間間隔（28日毎）			PDまで		
その他（特記事項など）					
①Durvalumabはインラインフィルター（0.2又は0.22μm）を使用して投与する。					
②体重30kg以下の場合のDurvalumabの1回投与量は20mg/kg（体重）とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Durvalumab維持療法	限局型小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	イミフィンジ 生理食塩液	1500mg/body 250mL	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④					
⑤					
⑥					
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週間間隔（28日毎）			2年間		
その他（特記事項など）					
①Durvalumabはインラインフィルター（0.2又は0.22μm）を使用して投与する。					
②体重30kg以下の場合のDurvalumabの1回投与量は20mg/kg（体重）とする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
GEM+VNR	肺癌 悪性胸膜中皮腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注 グラニセトロン注バック	6.6mg 3mg	点滴	30分	Day1, 8
②	ナベルビン 生理食塩液	25mg/m ² 50mL	点滴	全開 5分	Day1, 8
③	生理食塩液	100mL	点滴	10分	Day1, 8
④	ジェムザール 生理食塩液	1000mg/m ² 100mL	点滴	30分	Day1, 8
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	Day1, 8
⑥					
1コースの期間 3週(21日)			投与スケジュール及び総コース数 2投1休を1コースとして繰り返す PDまで		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Gemcitabine単剤療法	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day1,8,15
②	生理食塩液 100mL ジェムザール	1瓶 1000mg/m ²	点滴	30分	day1,8,15
③	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	全開 フラッシュ用	day1,8,15
1コースの期間 4週間(3投1休)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4コース程度継続		
その他(特記事項など) ジェムザールは副作用出現時、20－40%減量することあります。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Ipi+Nivo (中皮腫)	悪性胸膜中皮腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50ml	点滴	全開	day 1、22
①	オプジーボ 生理食塩液	360mg/body 100ml	点滴	30分	day 1、22
②	生理食塩液	50ml	点滴	30分	day 1
	生理食塩液	50ml	点滴	全開	day 1
③	ヤーボイ 生理食塩液	1mg/kg 50ml	点滴	30分	day 1
④	生理食塩液	50ml	点滴	フラッシュ	day 1、22
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
6週間			6週毎に行い、PD又は許容できない毒性まで継続		

その他(特記事項など)

インラインフィルター(0.2または0.22 μ m)を使用して投与する。
 inufusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Ipi+Nivo+CBDCA+PEM	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1、22
②	ニボルマブ 生理食塩液	360mg/body 100mL	点滴	30分	day1、22
③	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day1
④	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
⑤	イピリムマブ 生理食塩液	1mg/kg 50mL	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1、22
⑦	生理食塩液 プロイメンド注	100mL 150mg	点滴 (側管)	30分	day1、22
⑧	アロキシバグ デキサート注	0.75mg 6.6mg	点滴	30分	day1、22
⑨	生理食塩液 ペトレキシド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1、22
⑩	生理食塩液	100mL	点滴	30分	day1、22
⑪	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 5	点滴	60分	day1、22
⑫	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1、22
1コースの期間 6週間			投与スケジュール及び総コース数 6週間のレジメンを投与後、IPI+NIVOの維持療法に移行する		
その他(特記事項など)					
①ニボルマブとイピリムマブはそれぞれの投与に対して別々のインラインフィルターを使用する。 ②infusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。 ③カルボプラチンの投与量＝AUC×(クレアチニンクレアランス(mL/min)+25)で計算。 ④パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペトレキシド初回投与の1週間以上前より開始し、ペトレキシド最終投与日から22日目まで続行。 ⑤メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペトレキシド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペトレキシド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。 ⑥アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Ipi+Nivo+CBDCA+PTX	非小細胞肺癌 (扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1、22
②	ニボルマブ 生理食塩液	360mg/body 100mL	点滴	30分	day1、22
③	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day1
④	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
⑤	イピリムマブ 生理食塩液	1mg/kg 50mL	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1、22
⑦	生理食塩液 プロイメンド注	100mL 150mg	点滴 (側管)	30分	day1、22
⑧	アロキシバグ デキサート注 ガスター注20mg ポララミン注5mg	0.75mg 9.9mg 1A 1A	点滴	30分	day1、22
⑨	生理食塩液 パクリタキセル	500mL 200mg/m ²	点滴	180分	day1、22
⑩	生理食塩液 カルボプラチン	250mL AUC 6	点滴	60分	day1、22
⑫	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1、22

1コースの期間

6週間

投与スケジュール及び総コース数

6週間のレジメンを投与後、IPI+NIVOの維持療法に移行する

その他(特記事項など)

- ①ニボルマブとイピリムマブはそれぞれの投与に対して別々のインラインフィルターを使用する。
- ②infusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。
- ③カルボプラチンの投与量=AUC×(クレアチニンクリアランス(mL/min)+25)で計算。
- ④アロキシ投与時は、他の5HT₃(内服を含む)制吐剤は使用しない。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Ipi + Nivo維持療法	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1、22
②	ニボルマブ 生理食塩液	360mg/body 100mL	点滴	30分	day1、22
③	生理食塩液	50mL	点滴	30分	day1
④	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
⑤	イピリムマブ 生理食塩液	1mg/kg 50mL	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1、22
1コースの期間 6週間			投与スケジュール及び総コース数 PDまたは認容できない毒性まで継続する		

その他(特記事項など)

- ①ニボルマブとイピリムマブはそれぞれの投与に対して別々のインラインフィルターを使用する。
 ②infusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Nivo+CBDCA+PTX(術前)	非小細胞肺癌	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1
②	ニボルマブ 生理食塩液100mL	360mg/body 1瓶	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
⑦	パロノセトロンバッグ0.75mg デキサート注 ファモチジン注20mg ポララミン注5mg アロカリス235mg	1袋 9.9mg 1A 1A 1V	点滴	30分	day1
⑨	生理食塩液500mL パクリタキセル	1袋 200mg/m ²	点滴	180分	day1
⑩	生理食塩液250mL カルボプラチン	1袋 AUC 6	点滴	60分	day1
⑪	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間			投与スケジュール及び総コース数 術前3週おきに、3コース		
その他(特記事項など) ①ニボルマブはインラインフィルターを使用する。 ②infusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。 ③カルボプラチンの投与量＝AUC×(クレアチニンクリアランス(mL/min)＋25)で計算。 ④パロノセトロン投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
Nivo+CDDP+GEM (short) (術前)	非小細胞肺癌 (扁平上皮癌)	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1
②	ニボルマブ 生理食塩液100mL	360mg/body 1び	点滴	30分	day1
③	アロカリス235mg パロノセトロンバッグ0.75mg デキサート注	1V 1袋 9.9mg	点滴	30分	day1
④	生理食塩液100mL ゲムシタビン	1瓶 1250mg/m ²	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑥	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑦	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑧	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day8
③	生理食塩液 デキサート	100mL 6.6mg	点滴	30分	day8
④	生理食塩液100mL ゲムシタビン	1瓶 1000mg/m ²	点滴	30分	day8
⑤	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day8

1コースの期間

3週間間隔(21日)

投与スケジュール及び総コース数

術前、3コース

その他(特記事項など)

- ①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。必要時にDay2,3にDEX 8mg内服 朝もしくは朝昼で検討。
- ②パロノセトロン投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。
- ③ニボルマブ投与時はインラインフィルターを使用

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Nivo+CDDP+PEM (short) (術前)	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1
②	ニボルマブ 生理食塩液100mL	360mg/body 1瓶	点滴	30分	day1
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
④	パロノセトロンバッグ0.75mg アロカリス235mg デキサート注	1袋 1V 9.9mg	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 ペメトレキシド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
⑥	生理食塩液 硫酸Mg補正液1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑦	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑧	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑨	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間間隔(21日)			術前 3コース		

その他(特記事項など)

- ①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。終了時点での蓄尿量が1000mL以下のとき、Dr call。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。day2-3 デキサメタゾン (0.5) 16錠 朝もしくは朝昼。
- ②パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキシド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキシド最終投与日から22日目まで続行。メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキシド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキシド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ③パロノセトロン投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。
- ④ニボルマブはインラインフィルターを使用して投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
ネシツムマブ 維持療法	非小細胞肺癌 (扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	ネシツムマブ 生理食塩液	800mg/body 200ml	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day8
⑤	ネシツムマブ 生理食塩液	800mg/body 200ml	点滴	60分	day8
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day8
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間間隔（21日毎）			規定なし		

その他（特記事項など）
インラインフィルターは不要。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
(術前)Pembrolizumab+CDDP+GEM (short)	非小細胞肺癌 (扁平上皮癌)	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1
②	キイトルーダ 生理食塩液100mL	200mg/body 1瓶	点滴	30分	day1
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
④	アロカリス235mg パロノセトロンバッグ0.75mg デキサート注	1V 1袋 9.9mg	点滴	30分	day1
⑤	5%ブドウ糖液250mL ゲムシタビン	1瓶 1000mg/m ²	点滴	30分	day1
⑥	生理食塩液 硫酸Mg補正液 1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑦	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑧	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑨	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1
⑩	生理食塩液 デキサート	100mL 6.6mg	点滴	30分	day8
⑪	5%ブドウ糖液250mL ゲムシタビン	1瓶 1000mg/m ²	点滴	30分	day8
⑫	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day8
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 4コース後に外科切除、その後 Pembrolizumab維持療法を最大13サイクル まで行う		
その他(特記事項など)					
①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL)＋生食(mL)＝500mL】になるようにして使用。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。必要時にDay2,3にDEX 8mg内服 朝もしくは朝昼で検討。 ②パロノセトロン投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。 ③Pembrolizumabはインラインフィルター(0.2～1.2μm)を使用して投与する。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
(術前)Pembrolizumab + CDDP + PEM (short)	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☐ 進行・再発癌 ☒ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	全開	day1
②	キイトルーダ 生理食塩液100mL	200mg/body 1瓶	点滴	30分	day1
③	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
④	パロノセトロンバッグ0.75mg アロカリス235mg デキサート注	1袋 1V 9.9mg	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
⑥	生理食塩液 硫酸Mg補正液1mEq/mL KCL注キット 1mEq/mL	500mL 10mL 10mL	点滴	60分	day1
⑦	20%マンニトール	300mL	点滴	30分	day1
⑧	生理食塩液 シスプラチン	500mL 75mg/m ²	点滴	1時間	day1
⑨	ソルデム3A	500mL	点滴	1時間	day1

1コースの期間

3週間間隔(21日)

投与スケジュール及び総コース数

4コース継続、その後Pembrolizumab維持療法を最大13サイクルまで行う。

その他(特記事項など)

- ①シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500mL【シスプラチン(mL) + 生食(mL) = 500mL】になるようにして使用。終了時点での蓄尿量が1000mL以下のとき、Dr call。day1-3は飲水1000mL(day1は点滴終了までに500mL飲水させる)。day2-3 デキサメタゾン (0.5) 16錠 朝もしくは朝昼。
- ②パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。メチコパール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ③パロノセトロン投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。
- ④Pembrolizumabはインラインフィルター(0.2~1.2μm)を使用して投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Pembrolizumab/Pemetrexed維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	Pembrolizumab 生理食塩液	200mg/body 100mL	点滴	30分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	生理食塩液 デキサート注	100mL 6.6mg	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで継続 ただし、Pembrolizumab維持は35サイクルまで		

その他(特記事項など)

- ①パンプタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。副作用出現時はペメトレキセドを20ー50%減量することあります。
- ②メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ③Pembrolizumabはインラインフィルター(0.2～1.2μm)を使用して投与する。
- ④Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。
- ⑤ペムブロリズマブを6週間間隔で投与する場合は、400mg/bodyとする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Pembrolizumab/Pemetrexed維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	Pembrolizumab 生理食塩液	200mg/body 100mL	点滴	30分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
④	生理食塩液 デキサート注	100mL 6.6mg	点滴	30分	day1
⑤	生理食塩液 ペメトレキセド	100mL 500mg/m ²	点滴	10分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで継続 ただし、Pembrolizumab維持は35サイクルまで		

その他(特記事項など)

- ①パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前より開始し、ペメトレキセド最終投与日から22日目まで続行。副作用出現時はペメトレキセドを20～50%減量することあります。
- ②メチコバル1000μg/回×1回を筋肉内投与にてペメトレキセド初回投与の1週間以上前に施行し、その後ペメトレキセド投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。
- ③Pembrolizumabはインラインフィルター(0.2～1.2μm)を使用して投与する。
- ④Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Pembrolizumab維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
②	Pembrolizumab 生理食塩水	200mg/body 100mL	点滴	30分	Day1
③	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
1コースの期間 3週間(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで継続 ただし、35サイクルまで		

その他(特記事項など)

- ・0.2～0.5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のインラインフィルターを使用して投与する。
- ・Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。
- ・ペムブロリズマブを6週間間隔で投与する場合は、400mg/bodyとする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Pembrolizumab維持療法	非小細胞肺癌 (非扁平上皮癌)	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
②	Pembrolizumab 生理食塩水	200mg/body 100mL	点滴	30分	Day1
③	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間(21日)			PDまで継続 ただし、35サイクルまで		
その他(特記事項など)					
・0.2～0.5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のインラインフィルターを使用して投与する。 ・Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Pembrolizumab維持療法	肺扁平上皮癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
②	Pembrolizumab 生理食塩水	200mg/body 100mL	点滴	30分	Day1
③	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
1コースの期間 3週間(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで継続 ただし、35サイクルまで		

その他(特記事項など)

- ・0.2～0.5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のインラインフィルターを使用して投与する。
- ・Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。
- ・ペムブロリズマブを6週間間隔で投与する場合は、400mg/bodyとする。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Pembrolizumab維持療法	肺扁平上皮癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
②	Pembrolizumab 生理食塩水	200mg/body 100mL	点滴	30分	Day1
③	生理食塩水	50mL	点滴	フラッシュ	Day1
1コースの期間 3週間(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで継続 ただし、35サイクルまで		
その他(特記事項など) ・0.2～0.5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のインラインフィルターを使用して投与する。 ・Pembrolizumabの投与前後の生食は30mL程度でフラッシュする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Split dose CDDP+VP-16	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
②	生理食塩液 500ml 硫酸Mg補正液 1mEq/mL	1V 10mL	点滴	2時間	day1,2,3
③	ソルデム3A 500ml	1V	点滴	2時間	day1,2,3
側①	アロキシバッグ デキサート	1V 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day1
側①	生理食塩液 100mL デキサート	1V 6.6mg	点滴 (側管)	30分	day1,2,3
側②	生食500ml エトポシド	1V 80mg/m2	点滴 (側管)	2時間	day1,2,3
側③	生食500ml シスプラチン	1V 25mg/m2	点滴 (側管)	2時間	day1,2,3
1コースの期間 3週間(21日間)			投与スケジュール及び総コース数 4コース		
その他(特記事項など) シスプラチンは投与量の分だけ生食を廃棄して全量500ml【シスプラチン(ml)＋生食(ml)＝500ml】になるようにして使用。 アロキシ投与時は、他の5HT3(内服を含む)制吐剤は原則使用しない。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
Weekly CBDCA+PTX (concurrent radiation)	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注射液 6.6mg/2ml ガスター注射液 20mg ポララミン注5mg アロキシ注バッグ0.75mg	1V 1A 1A 1V	点滴	30分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36
②	パクリタキセル 生食 250ml	40mg/m ² 1袋	点滴	60分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36
③	カルボプラチン 生食 250ml	AUC=2 1袋	点滴	60分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36
④	生食 50ml	1袋	点滴	12分	day 1, 8, 15, 22, 29, 36
1コースの期間 6週間			投与スケジュール及び総コース数 radiation 2Gy/Fr×5日/週×6週間と併用		
その他(特記事項など) 6週間の投与終了後は、CBDCA(AUC=5)+PTX (200mg/m ² (一括投与)を3週毎に2コース					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
weekly nab-PTX	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート 生理食塩液	6.6mg 100mL	点滴	30分	day1,8,15
②	アブラキサン 生理食塩液	100mg/㎡ 50mL(※)	点滴	30分	day1,8,15
③	生理食塩液	50mL	点滴	全開 フラッシュ	day1,8,15
④					
⑤					
⑥					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日(3週間)			PDまで		
その他(特記事項など)					
・アブラキサン1Vに対し生理食塩液20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
weekly nab-PTX + CBDCA	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	100mL	点滴	5分 フラッシュ	day1.8.15
②	アブラキサン 生理食塩液	100mg/㎡ 50mL(※)	点滴	30分	day1.8.15
③	生理食塩液	50mL	点滴	5分 ルートフラッシュ	day1.8.15
④	デキサート注 アロキシバッグ	6.6mg 1V	点滴	30分	day1
⑤	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=6 250mL	点滴	60分	day1
⑥	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 21日(3週間)			投与スケジュール及び総コース数 4コース		
その他(特記事項など) ・アブラキサン1Vに対し生理食塩液20mLで溶解し、そこから必要量を採取して投与する。 ・投与時は、インラインフィルターは使用しないこと。 ・day2,3のDEX 8mg内服を検討					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
weekly Paclitaxel+CBDCA（CBDCA一括投与）	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg アロキシバッグ0.75mg	3V 1A 1A 1V	点滴	全開	day1
②	生理食塩液	100mL	点滴	30分	day1
①'	デキサート注6.6mg ガスター注20mg ポララミン注5mg 生理食塩液	1V 1A 1A 50mL	点滴	全開	day8,15
②'	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day8,15
③	パクリタキセル 生理食塩液	70-80mg／m ² 250mL	点滴	60分	day1,8,15
④	カルボプラチン 生理食塩液	AUC=5-6 250mL	点滴	60分	day1
⑤	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1,8,15
1コースの期間 28日（4週間）			投与スケジュール及び総コース数 adjuvantとしては、4コース、進行・再発癌に対しては6コース実施する		
その他（特記事項など） ・デキサートは6.6mg×3V又は6.6mg×1Vで使用。パクリタキセルは70-80mg／m ² で使用。 ・CBDCA（カルボプラチン）の投与量＝AUC×（24時間クレアチニンクレアランス（ml/minr）+25）で計算。 AUCは5-6に設定します。 アロキシ投与時は、他の5HT3（内服を含む）制吐剤は使用しない。					

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アテゾリズマブ（術後補助化学療法）	非小細胞肺癌 （非扁平上皮癌）	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	アテゾリズマブ 生理食塩液250mL	1200mg/body 1袋	点滴	30-60分	day1
②	生理食塩液50mL	1瓶	点滴	フラッシュ	day1
②					
②					
②					
1コースの期間 21日間			投与スケジュール及び総コース数 1年間		
その他(特記事項など) ・投与にはPVCフリーの0.2 μ mのインラインフィルター付き輸液セットを使用する ・投与時間は初回60分、問題なければ2回目以降30分で点滴可能 ・プラチナ製剤を含む術後補助療法後の術後病理病期ⅡB期/ⅢA期/ⅢB期のPD-L1陽性(TC≧1%)非小細胞肺癌が対象					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アミバンタマブ+ラゼルチニブ サイクル1 (80kg未満)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサメタゾン注 生理食塩液	9.9mg 50ml	点滴	15分	day1, 2, 8
②	生理食塩水	100ml	点滴	45分	day1, 2, 8, 15, 22
③	アミバンタマブ 生理食塩水	350mg 243ml	点滴	4時間	day1
④	アミバンタマブ 生理食塩水	700mg 236ml	点滴	4時間	day2
⑤	アミバンタマブ 生理食塩水	1050mg 229ml	点滴	約3時間	day8
⑥	アミバンタマブ 生理食塩水	1050mg 229ml	点滴	2時間	day15, 22
⑦	生理食塩水	50ml	点滴	フラッシュ	day1, 2, 8, 15, 22
	ラゼルチニブ	240mg (80mg × 3)	内服	1日1回	day1～28
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週間			1コース		

その他（特記事項など）

- ・ デキサメタゾンはアミバンタマブ投与開始45～60分前までに投与開始。本体1本目投与開始時に前投薬（ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg）内服あり。
- ・ 投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・ day1, 2は開始2時間は50ml/h投与、その後75ml/hへ速度変更。day8は85ml/hで投与。Day15, 22は125ml/hで投与。
- ・ アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mL【アミバンタマブ（mL）＋生理食塩液（mL）＝250mL】になるようにして使用する。
- ・ スクリーニング時の体重が80kg未満の場合に1050mg、80kg以上の場合に1400mgを投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アミバンタマブ+ラゼルチニブ サイクル1 (80kg以上)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサメタゾン注 生理食塩液	9.9mg 50ml	点滴	15分	day1, 2, 8
②	生理食塩水	100ml	点滴	45分	day1, 2, 8, 15, 22
③	アミバンタマブ 生理食塩水	350mg 243ml	点滴	4時間	day1
④	アミバンタマブ 生理食塩水	1050mg 229ml	点滴	5時間41分	day2
⑤	アミバンタマブ 生理食塩水	1400mg 222ml	点滴	4時間	day8
⑥	アミバンタマブ 生理食塩水	1400mg 222ml	点滴	3時間	day15
⑦	アミバンタマブ 生理食塩水	1400mg 222ml	点滴	2時間	day22
⑧	生理食塩水	25ml	点滴	治験薬と同じ速度	day1, 2, 8, 15, 22
	ラゼルチニブ	240mg (80mg × 3)	内服	1日1回	day1～28
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
4週間			1コース		

その他（特記事項など）

- ・ デキサメタゾンはアミバンタマブ投与開始45～60分前までに投与開始。本体1本目投与開始時に前投薬（ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg）内服あり。
- ・ 投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・ Day1は開始2時間は50ml/hで投与、その後75ml/hへ速度変更。Day2は開始2時間は35ml/hで投与、その後50ml/hへ速度変更。Day8は65ml/hで投与。Day15は85ml/hで投与。Day22は125ml/hで投与。
- ・ アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mL【アミバンタマブ（mL）＋生理食塩液（mL）＝250mL】になるようにして使用する。
- ・ スクリーニング時の体重が80kg未満の場合に1050mg、80kg以上の場合に1400mgを投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アミバンタマブ+ラゼルチニブ サイクル2以降 (80kg未満)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	100ml	点滴	30分	day1, 15
②	アミバンタマブ 生理食塩水	1050mg 229ml	点滴	2時間	day1, 15
③	生理食塩水	50ml	点滴	フラッシュ	day1, 15
	ラゼルチニブ	240mg (80mg × 3)	内服	1日1回	day1～28
1 コースの期間 4週間			投与スケジュール及び総コース数 制限無し		

その他（特記事項など）

- ・ 本体1本目投与開始時に前投薬（ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg）内服あり。
- ・ 投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・ Amivantamabは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mL【Amivantamab（mL）＋生理食塩液（mL）＝250mL】になるようにして使用する。
- ・ スクリーニング時の体重が80kg未満の場合に1050mg、80kg以上の場合に1400mgを投与する。
- ・ Amivantamabは必要に応じて700mg、350mgに減量できる。毒性から回復した場合、又は支持療法でコントロールが改善した場合は、以降、以前の用量まで増量してもよい。
- ・ Lazertinibは必要に応じて160mgに減量できる。

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
アミバンタマブ+ラゼルチニブ サイクル2以降 (80kg以上)	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩水	100ml	点滴	30分	day1, 15
②	アミバンタマブ 生理食塩水	1400mg 222ml	点滴	2時間	day1, 15
③	生理食塩水	25ml	点滴	治験薬と同じ速度	day1, 15
	ラゼルチニブ	240mg (80mg × 3)	内服	1日1回	day1～28
1 コースの期間 4週間			投与スケジュール及び総コース数 制限無し		

その他（特記事項など）

- ・ 本体1本目投与開始時に前投薬（ジフェンヒドラミン 50mg、アセトアミノフェン 1000mg）内服あり。
投与にはPVCフリーの0.2μmのインラインフィルター付き輸液セットを使用する。
- ・ アミバンタマブは投与量の分だけ生理食塩液を廃棄して全量250mL【アミバンタマブ（mL）＋生理食塩液（mL）＝250mL】になるようにして使用する。
- ・ スクリーニング時の体重が80kg未満の場合に1050mg、80kg以上の場合に1400mgを投与する。
- ・ アミバンタマブは必要に応じて1050mg、700mgに減量できる。毒性から回復した場合、又は支持療法でコントロールが改善した場合 は、以降、以前の用量まで増量してもよい。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
タルラタマブ サイクル1	小細胞肺がん	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液 デキサート	50mL 8. 25mg	点滴	全開	day1, 8
②	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1, 8, 15
③	タルラタマブ 輸液安定化液 注射用水 生理食塩液	1mg 13mL 1. 4mL 250mL	点滴	60分±10分	day1
③	タルラタマブ 輸液安定化液 注射用水 生理食塩液	10mg 13mL 4. 4mL 250mL	点滴	60分±10分	day8, 15
④	生理食塩液	50mL	点滴	3～5分	day1, 8, 15
⑤	生理食塩液	1000mL	点滴	4～5時間	day1, 8, 15
1 コースの期間 28日間			投与スケジュール及び総コース数 1コース		

その他（特記事項など）

- ・輸液ラインにはポリオレフィン又はポリ塩化ビニル製を用いる。
- ・タルラタマブは冷蔵庫から取り出され、投与終了までの総時間が8時間を超えない。
- ・デキサート注はタルラタマブ投与前1時間以内に投与する。

(別紙2)

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
タルラタマブ サイクル2以降	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1, 15
②	タルラタマブ 輸液安定化液 注射用水 生理食塩液	10mg 13mL 4.4mL 250mL	点滴	60分±10分	day1, 15
③	生理食塩液	50mL	点滴	3～5分	day1, 15
1 コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
28日間			病勢増悪まで		

その他（特記事項など）

- ・ 輸液ラインにはポリオレフィン又はポリ塩化ビニル製を用いる。
- ・ タルラタマブは冷蔵庫から取り出され、投与終了までの総時間が8時間を超えない。
- ・ デキサート注はタルラタマブ投与前1時間以内に投与する。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
デュルバルマブ	切除不能局所進行非小細胞肺癌	☐ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☒ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	生理食塩液	50mL	点滴	全開	day1
②	イミフィンジ 生理食塩液	10mg/kg 250mL	点滴	60分	day1
③	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 2週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDないしは12か月間まで		
その他(特記事項など) 0.2μmのin-lineフィルターを用いること。 根治的化学放射線療法後の維持療法					

がん薬物療法レジメン

レジメン名称	対象がん種	適応分類
トラスツズマブ デルクステカン	HER2陽性 非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	デキサート パロノセトロンバッグ	6.6mg 0.75mg	点滴	15分	Day1
②	5%ブドウ糖液	100mL	点滴	フラッシュ	Day1
③	トラスツズマブデルクステカン 5%ブドウ糖液	5.4mg/kg 100mL	点滴	90分 (2回目以降 30分)	Day1
④	5%ブドウ糖液	100mL	点滴	フラッシュ	Day1
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
3週間			PDまで		

その他(特記事項など)

- ・0.2 μ mのインラインフィルター(ポリエステルスルホン製またはポリスルホン製)を通して投与すること。
- ・本剤と生理食塩液との混合を避け、生理食塩液と同じルートを用いた同時投与は行わないこと。
- ・点滴バッグを遮光すること。
- ・室温で4時間以内、2-8℃で24時間以内。

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ニボルマブ	非小細胞肺癌 悪性胸膜中皮腫	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日
①	オプジーボ 生理食塩液	240mg/body 100mL	点滴	30分	day1
②	生理食塩液（フラッシュ）	50mL	点滴	15分	day1
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
14日（2週間）			PDまで継続		
その他（特記事項など）					
インラインフィルター（0.2または0.22 μ m）を使用して投与する。 infusion reactionを認めた場合は、次サイクルより前投薬の追加を考慮する。 4週間間隔で投与する場合は、480mg/bodyとする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ネダプラチン単剤	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	パロノセトン点滴静注バッグ 0.75mg/50mL デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
②	アクプラ 生理食塩液	100mg/m ² 500mL	点滴	90分	day1
③	ヴィーンD	500mL	点滴	120分	day1
④	ソルデム3A	500mL	点滴	120分	day1
1コースの期間 28日(4週間)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など)					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ノギテカン	小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法(進行) ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg	1袋	点滴	30分	day 1-5
②	生理食塩液 ハイカムチン	100mL 1.0mg/m ²	点滴	30分	day 1-5
③	ソルデム3A	200mL	点滴	60分	day 1-5
④					
⑤					
1コースの期間			投与スケジュール及び総コース数		
21日間			PDまで		

その他(特記事項など)

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ペムブロリズマブ	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ペムブロリズマブ 生理食塩液	200mg 100mL	点滴	30分	day1
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など) ・0.2～5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のin-lineフィルターを用いること。 ・6週間間隔で投与する場合は、400mg/bodyとする。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ペムブロリズマブ	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	ペムブロリズマブ 生理食塩液	200mg 100mL	点滴	30分	day1
②	生理食塩液	50mL	点滴	フラッシュ	day1
1コースの期間 3週間間隔(21日)			投与スケジュール及び総コース数 PDまで		
その他(特記事項など) ・0.2～5μmのポリスルホン製又はポリエーテルスルホン製のin-lineフィルターを用いること。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
ペメトレキセド単剤	非小細胞肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	グラニセトロンバッグ3mg デキサート注6.6mg	1袋 1V	点滴	30分	day1
②	生理食塩液 100mL アリムタ	1瓶 500mg/m ²	点滴	10分	day1
③	生理食塩液 50mL	1瓶	点滴	フラッシュ用	day1
1コースの期間 3週間間隔			投与スケジュール及び総コース数 PDまで4～6コース継続		
その他(特記事項など)					
パンビタン末1g/回×1回/日を連日経口投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前より開始し、アリムタ最終投与日から22日目まで続行。副作用出現時はアリムタを20～50%減量することあります。グラニセトロンバッグは生食100ml＋ゾフラン1Aに変更する場合あり。メチコバール1000μg/回×1回を筋肉内投与にてアリムタ初回投与の1週間以上前に施行し、その後アリムタ投与期間中および最終投与日から22日目まで9週ごと(3コースごと)に続行。					

がん薬物療法レジメン

レジメン名	対象がん種	適応分類
少量CBDCA+胸部放射線併用	肺癌	☒ 進行・再発癌 ☐ 術前補助化学療法 ☐ 術前化学療法（進行） ☐ 術後補助化学療法 ☐ その他

順序	投与薬剤	1日投与量	投与法	投与時間	投与日
①	カルボプラチン 生理食塩液 100ml	30mg/m ² 1袋	点滴	30分	20回（放射線と併用）
②	生理食塩液 50ml	1袋	点滴	フラッシュ	20回（放射線と併用）
③					
④					
⑤					
1コースの期間 4週間			投与スケジュール及び総コース数 最初の20回の照射時に併用		
その他（特記事項など） 放射線照射開始の1時間前からCBDCAを30分で点滴する。 放射線照射は合計60Gy。最初の40Gyの照射と併用する。適応患者は71歳以上とする。					